

静岡の劇団たんぽぽ、在宅医療テーマに公演

29日市内で初上演

開院30周年 苦小牧東病院と共催



苦小牧公演をPRする苦小牧東病院の関係者

在宅医療とみとりがテーマの「ゆずり葉の季節」



在宅医療やみとり、家族の「り葉の季節（はる）」が29日、県劇団たんぽぽによる道内巡回公演の一環で、開院30周年をテーマにした演劇「ゆずり葉の季節」が、苦小牧で初上演される。静岡

年を迎えた苦小牧東病院（苦小牧市明野新町）との共催。末期がんを患った高齢女性を自宅で見とる決断をした家族を取り上げた笑いあり涙ありの作品で、関係者は「死との向き合い方を考えるきっかけになれば」と来場を呼び掛ける。

日本在宅医学会の委託を受け、2014年に静岡県で開催された第16回日本在宅医学会大会浜松大会で上演した「記念写真―ゆずり葉の季節」を加筆した力作で、16年に一般公演をスタート。厚生労働省の推薦作品となっている。

物語は中学生になる美咲と両親、祖母「とし子」の家族5人を中心に展開。末期がんを宣告されたとし子が、余生を自宅で過ごしたいと考えていることを知った家族は悩

んだりと、葛藤しながらも在宅医療を手掛ける医師、看護師らの支援で祖母のために心を一つにする。

在宅医療やみとりを切り口に、死との向き合い方、家族の在り方について考える内容。新しい葉に命を譲るように古い葉が落ちるユズリハのように、人の命も次の代へと受け継がれていくことを表現する。

同劇団は25日から、道内5カ所を巡る。苦小牧公演は29日午後6時半から、苦小牧市文化交流センター多目的ホールで行う。苦小牧東病院開院30周年記念事業の一環で上演の前には「大切な人の最期の思いをかなえるために」の演題で、在宅医療に携わっている市内の医師や看護師による講話も30分程度予定している。

苦小牧東病院の担当者は「人生の終わりをどこで誰とどのように過ごしたいか。元気なうちに家族と話し合い、思いを共有するきっかけになれば」と話す。

チケットは前売り1000円、当日1500円。高校生以下（学生証持参で当日も1000円）。前売り券は同劇団のほか、同センター、苦小牧西子ども劇場、苦小牧市民会館などで取り扱っている。

問い合わせは同劇団 電話053(461)5395。

問い合わせは同劇団 電話053(461)5395。